

すわみつえ通信

No.371 2025年8月25日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

校内教育支援センター「With」の視察

文教福祉常任委員会は、8月21日(木)に昨年9月より開始した「校内教育支援センターWith(ウィズ)」を赤見台中学校と箕田小学校で視察しました。

鴻巣市では、「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策」(文科省Cocoloプラン)に基づき、2024年9月より、田間宮小学校・箕田小学校・鴻巣中学校・鴻巣西中学校・赤見台中学校・川里中学校に設置しています。

集団生活やクラスでの活動に不安を感じるお子さんが自らのペースで安心して学習及び学校生活を送ることができる居場所としています。児童生徒が「安心して過ごすことができ」「ひとりひとりが学び」「相談ができる」「クラスや周囲の人々とつながる」ことができるよう専門の先生が配置されています。



校内教育支援センター With(ウィズ) イメージ

相談体制

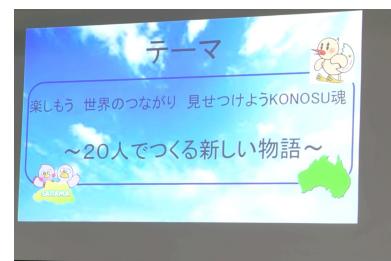
つながり

鴻巣市ホームページより掲載

「鴻巣市立中学校生徒海外派遣報告会」が開催され出席しました

オーストラリアのボーカムヒルズハイスクールで海外派遣研修を終えての報告会が8月22日(木)クレアこうのすで行われました。文教福祉常任委員として出席させていただきました。

20人の生徒さんが英語に続き、日本語で1週間の研修を元気に報告しました。体験から学んだことが、自身はもちろん、友人たちにも多くの影響を与えるであろうことが感じられました。



川里・屈巣地域で側溝にふたかけ工事が完了

県道に沿った側溝の除草を北本県土整備事務所に依頼していました。側溝にふたをかけることで安全と雑草の繁茂が防げるため、市の道路課に連絡しました。市によるふたかけ工事が完了し、すっかり綺麗になりました。



大切なのは火垂るの墓のサクマドロップ
俳句コーナー

瑠璃子

日本共産党
希望を語るつどい



8/30(土)
クレアこうのす
3階大会議室

伊藤 岳
前参議院議員

13時半 開場／開会14時～16時

議会報告 竹田えつ子・すわみつえ市議会議員

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

国連総長「人災だ」イスラエルを非難

(ききん)が発生している」とする国連機関などによる報告書の公表を受け、国連のグテレス事務総長は8月22日、「これは不可解な出来事ではない。人災であり道徳的に非難されるもので人類の過ちだ」と訴えました。イスラエルを非難し、即時停戦とガザへの十分な人道支援の再開を強く求めました。

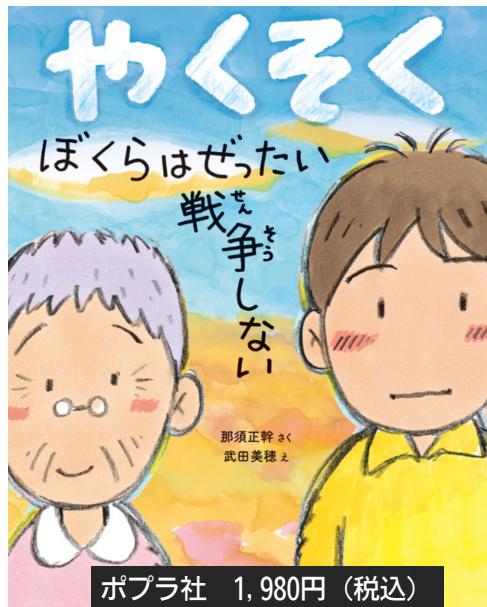
グテレス氏は、声明で飢餓は「生存に必要なシステムの意図的な破壊」で引き起こされていると指摘。ガザを占領するイスラエルには「住民の食料や医療物資を確保する国際法上の明確な義務がある」と述べ、「免罪され、この状況が継続することは許されない。もう言い訳は通用しない。行動すべき時は今だ」と強調しました。【ワシントン＝洞口昇幸】(しんぶん赤旗 8月24日付)

きょうの潮流

しんぶん赤旗 8月21日付

日傘にハンディー扇風機、アイスベストやファン付きの作業着も…。店には猛暑対策の商品がずらりと並び、すっかり定着。売り上げも好調だといいます▼いつまで続く、この暑さ。気象庁の3カ月予報によると、9月も10月も平年より気温が高いとか。「暦のうえでは秋でも高温が予想されているので、熱中症対策を続けてほしい」と呼びかけています▼今年の災害級の暑さは、人間活動による地球温暖化の影響がなければ、ほぼ起これえなかった一。そんな分析結果を気象学者らでつくる「極端気象アトリビューションセンター」がまとめました▼温暖化が進んだ現在の地球と、温暖化していない仮定の地球を比較した「イベント・アトリビューション」という手法で温暖化の影響を数値化。それによると、7月下旬の記録的高温の発生確率は現在の気象条件で3・2%だったのに対し、温暖化が進んでいない状況ではほぼ0%でした▼分析に携わった東大大気海洋研究所の今田由紀子准教授は「非常にショッキングな数字」だとテレビで語っていました。昔の世界では起これえない現象を、いまわれわれは経験している。問題意識や認識を高めていってほしいと▼日本の平均気温は世界より速い速度で上がっています。ところが自公政権は温暖化対策には後ろ向き、化石燃料や原発にしがみついたままで。このままだと私たちの生活や世界はどうなるのか。現実と、もう一つの地球に映る未来。しかし一方は仮想の姿、パラレルワールドです。

『やくそく ぼくらはぜったい戦争しない』 絵本 作／那須 正幹 絵／武田 美穂



原爆で肉親を失った祖母の過去と歴史に思いを寄せ、平和を強く誓う少年の姿を、率直な語り口で描いた絵本。

生涯をかけて戦争の悲惨さと愚かさを訴え続けた作家、那須正幹が遺した一編の詩(原題:「ばあちゃんの詩」)から、この絵本が生まれました。戦後80年を迎える今、あらためて平和の意義を子どもたちに問いかけます。

1978年の刊行以降、大人気を博した童話『ズッコケ三人組』シリーズの作者、広島市うまれの那須正幹さんの遺作だ。

孫のトオルがカバンしょって玄関をでようすると、ばあちゃんが「にいちゃん、いってらっしゃい」と。「ぼくのことを、原爆で死んだ“にいちゃん、”とまちがえてる」一。1945年8月6日の広島の朝、「いってらっしゃい」と声をかけられ家を出て、帰ってこなかつた人が沢山いたことを知るトオル。今でもにいちゃんを待つばあちゃんに、「ぼくらはぜったい戦争しない」とやくそくした少年の思いを綴る。

2021年に亡くなった那須さんの、未来へのメッセージのような、いや、平和な日本を大人も子どもも一緒につくろうと、約束しあう絵本だ。ぜったいに戦争はダメ、すべての人が悲しまなくていい平和をつくろう。その思いを、世代を超えて伝えあう夏にしたい。

(大江山革新懇 「全国革新懇ニュース 8月10日付」より)